

MACF 礼拝説教要旨

2025 年 9 月 14 日

「バベルの塔」

創世記 11 章

- 1 世界中は同じ言葉を使って、同じように話していた。
- 2 東の方から移動してきた人々は、シンアルの地に平野を見つけ、そこに住み着いた。
- 3 彼らは、「れんがを作り、それをよく焼こう」と話し合った。石の代わりにれんがを、しっくい代わりにアスファルトを用いた。
- 4 彼らは、「さあ、天まで届く塔のある町を建て、有名になろう。そして、全地に散らされることのないようにしよう」と言った。
- 5 主は降って来て、人の子らが建てた、塔のあるこの町を見て、
- 6 言われた。
「彼らは一つの民で、皆一つの言葉を話しているから、このようなことをし始めたのだ。これでは、彼らが何を企てても、妨げることはできない。
- 7 我々は降って行って、直ちに彼らの言葉を混乱させ、互いの言葉が聞き分けられぬようにしてしまおう。」
- 8 主は彼らをそこから全地に散らされたので、彼らはこの町の建設をやめた。
- 9 こういうわけで、この町の名はバベルと呼ばれた。
主がそこで全地の言葉を混乱(バラル)させ、
また、主がそこから彼らを全地に散らされたからである。

* * * * *

有名なバベルの塔のお話です。バベルという名前は「混乱」という意味があります。

人間の歴史は悲しいことに「征服の歴史」でもあります。

ある地域の人たちや兵士たちが越境し、剣で支配し、征服し、言葉を変えさせ
征服者の威厳と力を誇示して、「我々こそナンバーワンだ」と支配の分野を広げていきます。
そして、その権威の象徴として塔を建てることは昔からの慣わしです。
さらに、自分たちだけで自給自足経済や、文化を作り上げ、他者との共存とか他国言語を認めない

とか、他の国の文化を否定し、軽蔑したりすることもよくあります。

バベルの塔の背景にある「力を持ち始めた人間の行状」はまさに「征服者の行状」なのです。

- 1) 同じ言語
- 2) 堅固な整備
- 3) 天にまで届く塔を建て有名に

4) 全地に散らされることのないように

ヨハネの黙示録 5 章には、天の祝福された人々の姿がでていますが、こう書かれています。

7 小羊は進み出て、玉座に座っておられる方の右の手から、巻物を受け取った。

8 巻物を受け取ったとき、四つの生き物と二十四人の長老は、おのおの、豎琴と、香のいっぱい入った金の鉢とを手に持って、小羊の前にひれ伏した。

この香は聖なる者たちの祈りである。

9 そして、彼らは新しい歌をうたった。

「あなたは、巻物を受け取り、

その封印を開くのにふさわしい方です。

あなたは、屠られて、

あらゆる種族と言葉の違う民、

あらゆる民族と国民の中から、

御自分の血で、神のために人々を贖われ、

10 彼らをわたしたちの神に仕える王、

また、祭司となさったからです。

彼らは地上を統治します。」

征服者は「言葉を支配し」「自分の周りを堅固に固め、」「神にさえも挑戦し」「自分たちだけの
枠組みの中で」

生活することがベストだと信じているようです。

人間社会は大原則として互いに「分かち合うこと」「受け入れ合うこと」「同じ方向を見ながら進む」「よその人」との

関係がとても重要です。

神様は私たちが、そういう愛をもって生きることを望んでおられるのです。

神様は彼らを散らし、「分かち合うこと」「受け入れ合うこと」「同じ方向を見ながら進む」「よその人」の中に

人々を置いて再教育しようとしています。

これは教会においても同様です。

* * * *

Youtube での MACF 礼拝映像は

<https://youtu.be/gzW3s2xeNYA>